

数学科シラバス 高校3年

1. 教科到達目標

人間を取り巻く環境や、身の回りで起こる様々な事象に対する科学的な探究心を持ち、数学で学んだ力を通して、積極的に社会に還元する姿勢を養う。	様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理し、その結果を解釈する力を養う。	数学が社会の様々な分野の基礎を支えていることを踏まえ、物事を数学的に解釈し、基礎的な計算処理を行う力を養う。
--	--	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

<数学C>

2. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 数学 (科目) 数学C	2 単位	第 3 学年	教科書「高等学校 数学C」(数研出版) 補助教材「クリアー 数学C」(数研出版)
学習の到達目標	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性> 平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法を用いて社会の諸現象を表現し，それをさまざまな人々とともに解析しようとする態度を養う。		
	<思考力・判断力・表現力> 平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法における知識・技能を用いて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりする力を養う。		
	<知識・技能> 平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法における基本的な概念，原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出，未実施・・・0%

3. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 ・ 5 月	複素数平面	○複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・複素数のもつ図形的な側面を理解し、極形式やド・モアブルの定理などの扱いに習熟する。
6 ・ 7 月	式と曲線 ・2次曲線	○平面上の曲線がいろいろな式が表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・放物線、楕円、双曲線についてその定義を理解し、それらの座標平面上での扱いに習熟する。
9 ・ 10 月	式と曲線 ・媒介変数表示と極座標 総合演習	○平面上の曲線がいろいろな式が表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・媒介変数表示および極座標と極方程式について習熟する。 ・総合演習では、プリントを配付する。
1 1 月	総合演習	○時間があれば高校数学全範囲に関する入試問題演習も行い、実践力をつける。	・総合演習では、プリントを配付する。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
＜主体性・多様性・協働性＞			授業中の小課題 レポート提出
＜思考力・判断力・表現力＞			定期考査
＜知識・技能＞			定期考査

【観点別評価】

1. 授業中の小課題の場合

A：意欲的に取り組んでいる。（全問正解でなくても、解き直しができていればよい。
また、当日欠席の場合も後日提出すればよい）

B：取り組めているが、やや積極性に欠ける。(解き直しが不十分な箇所がある)

C：ほぼ空欄で、解き直しもできていない。

D：未提出

2. レポート提出の場合

A：期限までに提出され、内容理解ができている。

B：期限までに提出されたが、内容理解が不十分である。(解き直しが不十分な箇所がある, など)

C：期限後に提出され、ある程度の内容理解ができている。

D：未提出